

4年生

教科	成果	課題	重点取り組み
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、感想や疑問等をノートに書くことができる児童は多い。また、多くの児童が友達と意見を交流する活動を楽しむ。 ・文学的文章の読み取りは比較的できる児童は多い。 ・読書をするのが好きな児童が多い。但し、偏りがあり、半分の児童が、低学年向きの本を手に入れていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい漢字や言葉の習得及び定着、言葉の働きの理解について不十分な児童が一定数いる。 ◎目的を明確にした上で、段落の構成に注意しながら、指定された長さで文章を書くことが苦手な児童が多い。 ・話の中心を意識してメモをとりながら聞き取ることができず、聞き取りテストでも点数がとれない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の単元を学習する際に、初め・中・終わりの段落構成をしっかりおさえる。 ◎伝えたい事柄の中心を明確にし、三段構成を考えて書くように指導する。 ・漢字や言葉の獲得及び主語、述語などの言語の働きについての理解の定着を図る。そのために、言葉の学習に興味をもって取り組める学習活動を計画し、実践していく。 ・日頃の学習活動を通して、友達の考えの中心を考えながら聞こうとする態度を育てていく。
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数の相対的な大きさや数直線上に示された数や棒グラフの読み取りについて理解している。 ・新しい学習問題に意欲的に取り組んでいこうとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正三角形や二等辺三角形の性質等の図形の理解が不十分である。 ・文章題を読んでその意味を正しく捉え、根拠をもって立式をすることが苦手な児童が多い。数直線図などに表すこともできない。 ◎整数の四則計算の技能については、定着率60%以下の児童が3割ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の学習では、正三角形、二等辺三角形など、対象とする図形だけを扱うのではなく、それ以外の図形との違いに着目させることで性質の理解に繋げる。 ・日常的に、図や数直線などを積極的に活用し、立式の手がかりにする。 ・朝の活動などを利用して、定期的に計算の演習や図形を描く活動を取り入れていく。

<h2 style="text-align: center;">社会</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理や飲料水の供給などの生活に身近な問題については、自分の生活に結び付けて考えることができる児童が多い。 ・東京都の様子や地理的環境の特色、安定した飲料水の供給、廃棄物の処理等について新しく知る学習活動に興味をもって取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎複数の資料を読み取り、内容を比較したり関連付けたりして考えることが苦手な児童がいる。また、それをもとに予想をたてたり、自分の考えをもったりすることにやや消極的である。 ・社会的事象から自分で課題を発見し、学習に取り組もうとする意欲がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教材の開発や生活に結び付けて考えられるような資料提示を工夫する。 ・日常生活の中から学習課題を見付け意欲的に解決していけるよう発問や活動を工夫する。 ・表やグラフ、資料を丁寧に読み取りそこから分かることを伝え合う活動を多く取り入れる。
<h2 style="text-align: center;">理科</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に対して、興味・関心をもって取り組むことができる。 ・実験の経験を重ねることで、基本的な技能が身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験したことを知識として定着させること。 ◎実験や観察で分かったことを、根拠を明らかにして考えたり、文章に表したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察において、一貫したノート指導を行う。 ・観察や実験の際は、観察して分かったことや実験を通して分かったことを毎回書き込むことを徹底させる。
<h2 style="text-align: center;">音楽</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー演奏や器楽合奏に意欲的に取り組む姿が見られる。 ・楽曲を聴いて、旋律の特徴や、音楽の仕組みから、曲想の変化を感じ取り、言語で伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歌唱や器楽演奏では、自分なりに表現を工夫したり、どのように表現するのか思いや意図をもったりする力が弱い。 ・互いの楽器の音や副次的旋律を聴いて、拍の流れに乗って演奏すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲分析の時間を取り、作者の思いや意図を理解する機会をもつ。その上で、自分がどのように表現したいのか、考えたり意見交換したりする経験を積ませる。
<h2 style="text-align: center;">図工</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に制作活動や造形遊びに取り組める児童が多い。 ・新しく学ぶ画材や道具の使い方を、教師の話をよく聞いて実践することができる児童が多い。 ・自分の思いをもって、作品づくりに工夫を取り入れられる児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎既習事項からさらに創意工夫を加えたり、表現の幅を広げたりすること。 ・表現に工夫が見られる児童が多い反面、なかなか工夫ができない児童もいるため、差があること。 ・作品を最後までやり遂げる前に集中が切れてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使ってきた道具や材料の新しい使い方や技法を取り入れたり、新しい道具や材料に触れさせたりし、様々な表現方法を体験させる。 ・児童の発想や表現を称賛していき、意欲を高めていく。
<h2 style="text-align: center;">体育</h2>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域にも意欲的に取り組む姿が見られる。また、技の定着や技の精度の向上のために、試行錯誤する姿勢が見られる。 ・みんなで協力することや、チーム競技を行う際の一人一人の役割という点について意識していくことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得が早い児童と、技能を修得するのに時間を要する児童など、運動技能の習得に差が見られること。 ◎何を意識すれば技能がうまく身に付けられるのかを考えながら練習をすることに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに技能向上のポイントを図解して示し、カードを確認しながら活動できるようにする。

